

「持たないことの幸せ」へ向かうスマート時代

清水 計宏

有限会社清水メディア戦略研究所 代表取締役社長

インターネット社会を考える上で、「ソーシャル」「スマート」「クラウド」はもはや避けて通れなくなっている。これらは個別の傾向ではなく、相互に密接につながり合っており、ほぼ同じ方向にかなりのスピードで進展している。

こうした現象は、従来の社会・経済構造を堅固なものにするよりも、むしろいったん解体し、新しいパラダイムに向かわせている。そのため、既存の枠組みの中でうまく利用しようとしても、思わぬ抵抗・困難に遭い、散々な結果になってしまいがちである。

専用ゲーム機に依存してきたコンソールゲームも、CDを中心としたフィジカルなメディアを介した音楽も、トップダウン型のマスメディアも、これまでの延長線上には、輝かしい未来は望めなくなっている。

スマートフォン、スマートテレビ／家電、スマートグリッドだけでなく、さまざまなモノ、システム、プロジェクト、インフラにまで広がっているスマート化は、単に情報通信技術（ICT）を駆使した、最適なシステムだけを意味するものではない。

それは、エネルギー効率のいい持続可能な社会と「人間最優先」を基本理念としながらも、個人を不自由にしていた「所有」「時間・空間」「情報の遍在」「エネルギー問題」からの解放も実現しようとする。スタンドアロンから共有・協調の利用形態への移行でもある。クラウドと同期・同調しながら、所有の“不自由さ”からの解放にも向かわせている。

所有からの解放とは、従来の「持つことの幸せ」から、「持たないことの幸せ」への移行を意味する。持たないことは、不

自由な状態に逆戻りすることではなく、“すべて使える”ぐらいの自由の拡張に近い。これにより、貧富の格差の要因になっている、「所有」の偏在の補正も進む。

シェアリング・共有というものは、人のものや公共のものを借りるというよりも、個人の志向性と環境をどこにでも移すことができるという理解したほうがいい。つまり「どこでも私」になるということだ。これまでは、自ら保有・管理できるものをパーソナライズしていたが、しだいに多くのものが使用時に、「私」というID（個体識別）さえ確認できれば、自分の環境にシフトするようになる。

もうひとつ、忘れてならないことは、インターネットはもともと危機耐性のある通信システムを目指して構築されたが、これも電力・電気がなければ使えないということである。情報ネットワークの危機耐性を高めるのであれば、同時にエネルギーにも同じ措置が必要になる。

そのためには、ユーザーおよび家庭でのエネルギー生成を推進し、創エネルギーによって、エネルギーの双方向化を実現することである。さまざまな電子製品・システムにバックアップ電源や蓄電池を備えるとともに、周囲の環境からエネルギーを集約・収穫して電力に変換するエネルギーハーベスティング（環境発電技術）を発達させ、自家発電機能を装備させることである。

振動、光、熱などのソースから得られるエネルギーを変換するパワーマネジメントデバイスの開発も、進んでいる。こうした技術により、バッテリーやスーパーキャパシター（新しいエネルギー蓄積デバイス）などの蓄電素子の充電が可

能になり、電気の危機回避力も増すことになる。

現時点では夢物語かもしれないが、近い将来にはエネルギーにもほぼ自動でIDが振られて、その生成過程が記録され、情報と同じパイプラインを通る可能性もある。情報とエネルギーがある意味で等価となり、相互乗り入れ、相互交換さえできる可能性さえある。

スマート化において、その技術的可能性と経済的有用性、機能的便益だけに目を奪われがちであるが、感性的・感情的な価値や美意識も含めて、人間の本质に目を向けることも忘れてはならない。

また、ソーシャルメディアやソーシャルネットワークは、東日本大震災などでその危機耐性の高さが証明された。そこで発揮された、情報の価値と存在感の相互生成も重要な役割である。

インターネット上の情報というのは、未精製・未精錬で価値が不定であり、その多くは水泡のごとく浮かんで消え、ストレージの奥にしまわれていく。ソーシャルネットワークは、その混沌にひとつの視点・意味を与え、時に価値を生み出し合い、そこにさまざまな関係性を与えていく。それは、誰もがかけがえのない存在だという証しにもなる。

スマート時代というのは、個人の能力を最大限に解放して自立・自足性を促し、危機耐性を高め、人類がこれまでに得た知恵と経験を糧にして、あるべき社会を根底から再構築するときに来たことを意味している。

「ソーシャル」「スマート」「クラウド」は、そのトリガーにもなり、現代の閉塞感を突破するエンジンにもなるはずである。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp